

# WebGLによるデータ可視化入門<sup>\*1</sup>

## 簡単なWebGLプログラム

陰山 聡

神戸大学 システム情報学研究科 計算科学専攻

2013.04.30

---

<sup>\*1</sup>情報可視化論 X021 (2013 年前期) LR301

事務連絡

前回の復習

線形代数の復習

WebGL グラフィックスパイプライン

## 事務連絡

- 次週より教室変更
- 3号館1階演習室
- 自分の（ネットにつながる）ノートPCを持ち込んでもよい
- IDとパスワード：

# 前回の復習

# WebGL とは

WebGL = シェーダを使い、HTML5 の canvas に、JavaScript で 3D CG を書くための API

# 公式 Web Site とサポートしているブラウザ

<http://www.khronos.org/webgl/>

## Implementations

- Desktop
  - Apple Safari (WebKit)
  - Google Chrome
  - Mozilla Firefox
  - Opera
- Mobile
  - Chrome for Android
  - Firefox for Android

## Demos



Demo Repository

## WebGL の特徴

- スタンドアロンアプリからウェブアプリへの流れ
- クロスプラットフォーム
- オープンスタンダード
- Web で GPU を使ったレンダリングが可能
- 開発・利用が容易：プラグイン不要
- ソースコードが見える
- グラフィックス（OpenGL）と UI（ウィンドウ管理やイベント処理）の分離が明白

# 線形代数の復習



## 同次座標

同次座標 ( homogeneous coordinates ) とは 3 次元空間中の位置座標  $x$  と、任意のベクトル  $v$  をあえて 4 成分で表現したものの。

位置座標  $x = (x, y, z)^T$  は

$$(x, y, z, 1)^t \quad (1)$$

とする。

ベクトル  $v = (v_x, v_y, v_z)^T$  は

$$(v_x, v_y, v_z, 0)^t \quad (2)$$

とする。

## アフィン変換

3次元空間の位置座標  $x$  や一般のベクトル  $v$  の変換を考える。

$$x \longrightarrow y \equiv F(x). \quad (3)$$

線形変換 = スケール変換 + 回転 + 剪断。

アフィン変換 = 線形変換 + 平行移動。

平行移動は3行3列の行列では書けない。

同次座標と4行4列の行列を使えば書ける。

## 線形代数の復習：内積

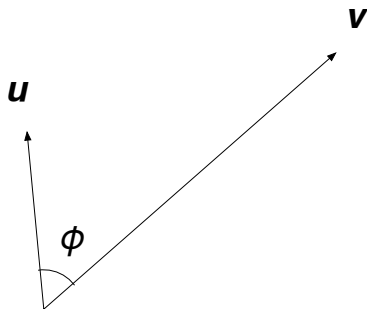
$n$ 次元空間中のベクトルと正方行列

ベクトル  $u$  の大きさ

$$u = |\mathbf{u}|$$

内積

$$\mathbf{u} \cdot \mathbf{v} = u_i v_j = u v \cos \phi$$



## 線形代数の復習：正規直交系

$$e_i \cdot e_j = \delta_{ij} \quad (\text{クロネッカーのデルタ})$$

一般のベクトル  $v$  と正規直交系  $\{e_0, e_1, \dots, e_{n-1}\}$

$v$  の  $i$  成分

$$v_i = v \cdot e_i$$

## 線形代数の復習：外積

## 3次元空間のベクトル

$$\mathbf{w} = \mathbf{u} \times \mathbf{v} \quad w_i = \epsilon_{ijk} u_j v_k \quad (\text{エディントンのイプシロン})$$

$\mathbf{w}$  は  $\mathbf{u}$  と  $\mathbf{v}$  の両方に垂直

$$w = u v \sin \phi$$

$$\mathbf{u} \times \mathbf{v} = -\mathbf{v} \times \mathbf{u}$$

$$\mathbf{u} \cdot (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = (\mathbf{u} \cdot \mathbf{w}) \mathbf{v} - (\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}) \mathbf{w}$$

## 線形代数の復習：行列のかけ算

$M$  と  $N$  は行列

行列  $M$  の成分を  $M_{ij}$  ( $i, j = 0, 1, \dots, n-1$ )

行列  $N$  の成分を  $N_{ij}$  ( $i, j = 0, 1, \dots, n-1$ )

とすると

$$L = MN$$

の成分は

$$L_{ij} = \sum_{k=0}^{n-1} M_{ik}N_{kj} = M_{ik}N_{kj}$$

## 線形代数の復習：行列のかけ算

$$(LM)N = L(MN)$$

$$(L + M)N = LN + MN$$

$$MI = IM = M \quad (I : \text{単位行列})$$

一般には非可換：

$$MN \neq NM$$

## 線形代数の復習：逆行列

正方行列  $M$  に対して

$$MN = NM = I$$

という行列  $N$  を逆行列という。

逆行列を

$$M^{-1}$$

と書く。

一般には逆行列を求めるのは大変（計算量が多い）

glMatrix.js（後述）では4行4列の逆行列を求める関数が組み込まれている。



## 線形代数の復習：行列式

正方行列に対して

$$\det(\mathbf{M})$$

$$\det(\mathbf{I}) = 1$$

$$\det(\mathbf{MN}) = \det(\mathbf{M}) \det(\mathbf{N})$$

$$\det(\mathbf{M}^t) = \det(\mathbf{M})$$

## 線形代数の復習：行列の転置

行列  $M$  の成分を  $M_{ij}$  ( $i, j = 0, 1, \dots, n - 1$ )

転置行列を  $M^t$  と書く

$a$  を数、 $M$  と  $N$  を行列として

$$(aM)^t = aM^t$$

$$(M + N)^t = M^t + N^t$$

$$(M^t)^t = M$$

$$(MN)^t = N^t M^t$$

## 線形代数の復習：行列のトレース

$$\text{tr}(M) = \sum_{i=0}^{n-1} M_{ii}$$

## 線形代数の復習：直交行列

$$MM^t = M^t M = I$$

を満たす正方行列  $M$  を直交行列という。

$$M^t = M^{-1}$$

$$\det(M) = \pm 1$$

$M^t$  も直交行列。

直交行列はベクトルの長さを変えない：

$$|Mu| = |u|$$

直交する二つのベクトルを直交行列で変換すると直交する

$$u \cdot v = 0 \iff (Mu) \cdot (Mv) = 0$$

## 3次元空間中の平面

点  $p$  を通り、ベクトル  $u$  とベクトル  $v$  で張られる平面の式：

$$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{p} + s\boldsymbol{u} + t\boldsymbol{v}$$

単位ベクトル  $\boldsymbol{n} \equiv \boldsymbol{u} \times \boldsymbol{v} / |\boldsymbol{u} \times \boldsymbol{v}|$  を使えば、

$$\boldsymbol{n} \cdot \boldsymbol{x} + d = 0$$

$\boldsymbol{n}$  を法線ベクトルという。  $f(\boldsymbol{x}) = \boldsymbol{n} \cdot \boldsymbol{x} + d$  とすると

$f(\boldsymbol{x}_0) = 0 \iff$  点  $\boldsymbol{x}_0$  はこの平面の上

$f(\boldsymbol{x}_0) > 0 \iff$  点  $\boldsymbol{x}_0$  は  $\boldsymbol{p} + \boldsymbol{n}$  側にある

$f(\boldsymbol{x}_0) < 0 \iff$  点  $\boldsymbol{x}_0$  は  $\boldsymbol{p} - \boldsymbol{n}$  側にある

## 面積

3点  $p, q, r$  を頂点とする 3 角形の面積

$$S = \frac{1}{2} |(\mathbf{p} - \mathbf{r}) \times (\mathbf{q} - \mathbf{r})|$$

$x$ - $y$  平面上におかれた  $n$  角形の面積

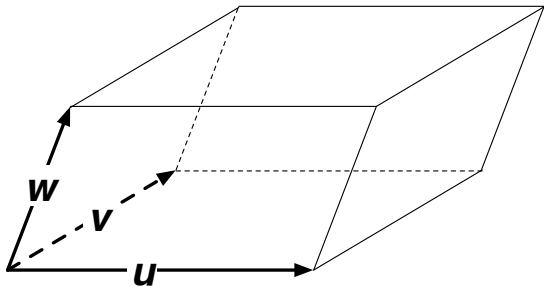
$$S = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} (x_i y_{i+1} - y_i x_{i+1}) = \frac{1}{2} \sum_{i=0}^{n-1} \{x_i (y_{i+1} - y_{i-1})\}$$

添字は  $\text{mod } (n)$  をとる。

## 体積

原点を基点とする3つのベクトル  $u, v, w$  が張る平行6面体の体積

$$V = \mathbf{u} \cdot (\mathbf{v} \times \mathbf{w}) = \mathbf{v} \cdot (\mathbf{w} \times \mathbf{u}) = \mathbf{w} \cdot (\mathbf{u} \times \mathbf{v})$$



## 同次座標

3次元 4次元

3次元空間の位置座標

$$(x, y, z) \implies (x, y, z, 1)$$

3次元空間のベクトル

$$(v_x, v_y, v_z) \implies (v_x, v_y, v_z, 0)$$

3次元空間の行列

$$M = \begin{pmatrix} M_{00} & M_{01} & M_{02} & 0 \\ M_{10} & M_{11} & M_{12} & 0 \\ M_{20} & M_{21} & M_{22} & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$



## 平行移動

平行移動行列

$$T(t_x, t_y, t_z) = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & t_x \\ 0 & 1 & 0 & t_y \\ 0 & 0 & 1 & t_z \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (4)$$

## 回転

 $z$  軸の周りの回転

$$R_z(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (5)$$

## スケール変換

$$S(s_x, s_y, s_z) = \begin{pmatrix} s_x & 0 & 0 & 0 \\ 0 & s_y & 0 & 0 \\ 0 & 0 & s_z & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (6)$$

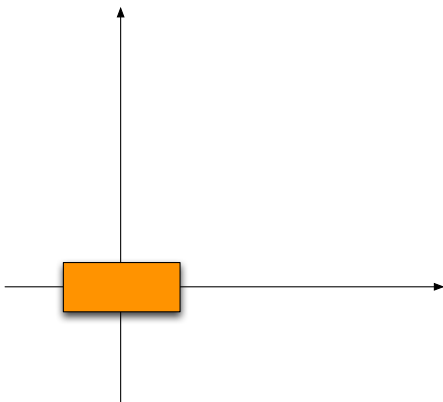
## 剪断

$$H_{xy}\beta = \begin{pmatrix} 1 & \beta & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}. \quad (7)$$

## 座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

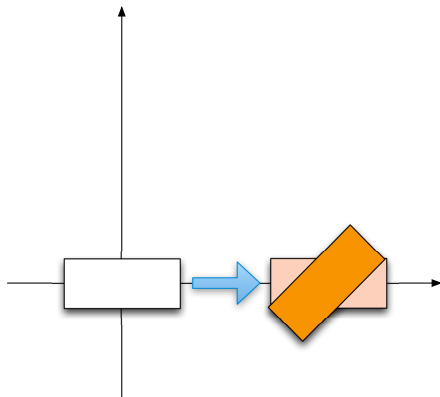
$$M_1M_2 \neq M_2M_1$$



## 座標変換の合成

アフィン変換は非可換。一般に

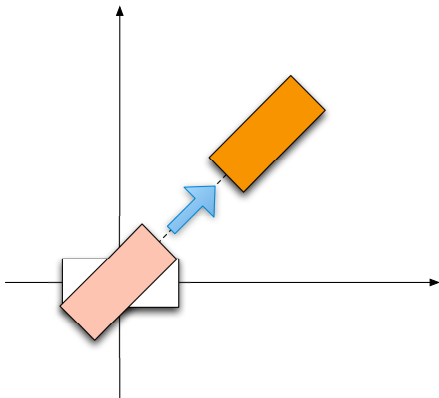
$$RT \neq TR$$



## 座標変換の合成

アフィン変換は非可換

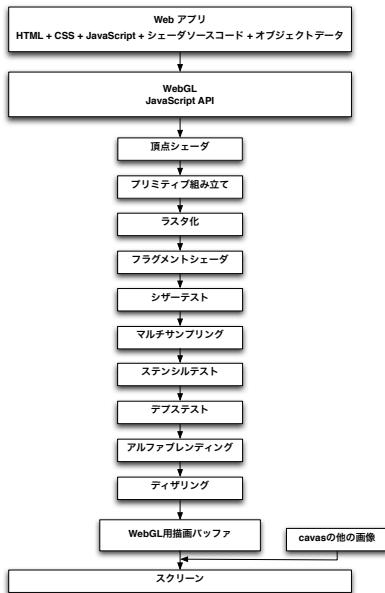
$$RT \neq TR$$



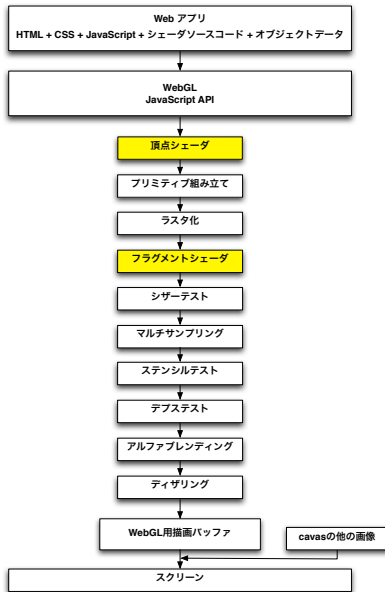
# WebGL グラフィックスパイプライン



## WebGL のグラフィックスパイプライン

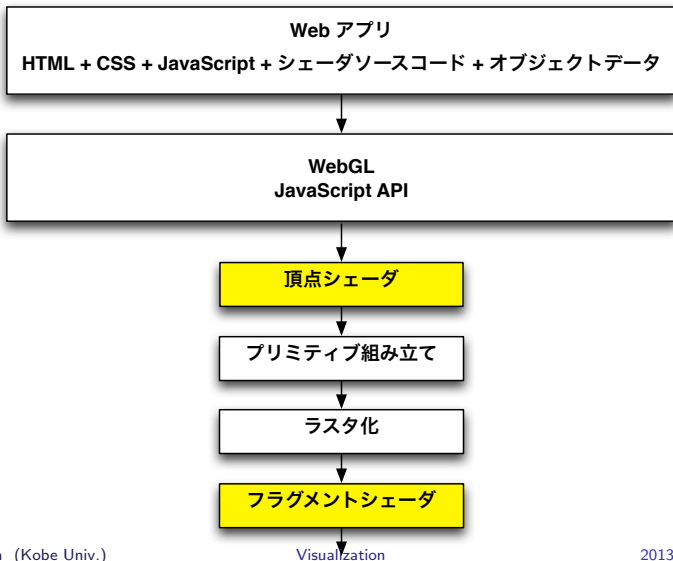


## シェーダ ( 拡大図は次のページ )



# シェーダ

## 頂点シェーダ（バーテックスシェーダ）とフラグメントシェーダ



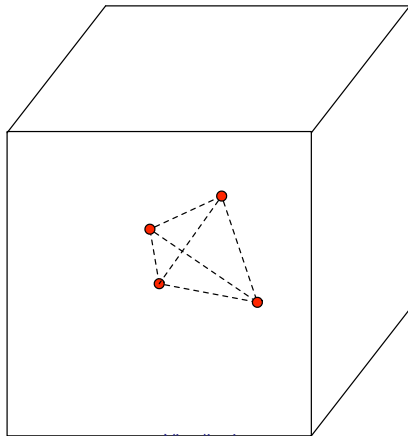
# WebGL アプリケーション

Web アプリ = HTML + CSS + JavaScript

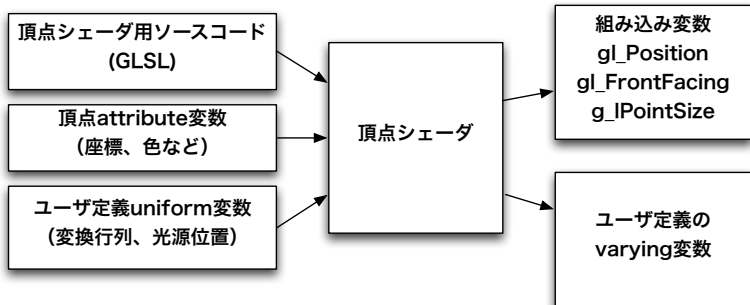
WebGL アプリ = HTML + CSS + JavaScript + シェーダ言語 ( OpenGL SL )

## 頂点シェーダ

- 各頂点に対して処理を行う
- 並列処理
- $n$  個の頂点があれば  $n$  個の頂点シェーダプロセッサを同時に実行させる



## 頂点シェーダの入出力データ



## 頂点シェーダプログラム

- C 言語に似ている。
- OpenGL SL (Shading Language)
- 4 行 4 列の行列ベクトル演算が組み込み関数

```
attribute vec3 aVertexPos;  
attribute vec4 aVertexColor;  
  
uniform mat4 uMVMatrix;  
uniform mat4 uPMatrix;  
  
varying vec4 vColor;  
  
void main() {  
    gl_Position = uPMatrix * uMVMatrix * vec4(aVertexPos, 1.0);  
    vColor = aVertexColor;  
}
```